

平成 26 年度 第 1 回淡路島定住自立圏共生ビジョン懇談会

会議概要

【 日 時 】 平成 26 年 9 月 1 日 (月) 14 時 00 分 ~ 15 時 30 分

【 場 所 】 洲本市役所南庁舎 3 階 301 会議室

【 出席者 】 委員 8 名、事務局 4 名、連携市 (淡路市) 2 名、関係課職員 6 名

【 次 第 】

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 委員紹介
4. 副会長選任
5. 報告事項
 - 報告第 1 - 1 号 定住自立圏構想の概要について
 - 報告第 1 - 2 号 平成 25 年度淡路島定住自立圏の取り組みについて
6. 協議事項
 - 議案第 1 - 1 号 平成 26 年度淡路島定住自立圏共生ビジョン
(第 1 次案) について
7. その他
8. 次回開催予定
9. 副会長挨拶
10. 閉会

【 内 容 】

1. 開会
2. 会長挨拶
 - ・ただいまご紹介をいただきました狩野揮史です。昨年に引き続き、淡路島定住自立圏共生ビジョン懇談会の会長を務めさせていただきます。
よろしく申し上げます。

- ・この懇談会は、洲本市と淡路市がそれぞれ推進しているさまざまな分野、例えば、医療、教育、産業振興、環境・エネルギー、地域公共交通などにおいて、両市が連携し、より充実した行政サービスの提供をめざして取り組む事業について意見を交わすための場です。
- ・昨年の懇談会では、各委員から専門的な見地に立ってのご意見・ご提案を多数いただいたが、それらに対し、十分に対応できなかったこともあり、改善するため、今回からは、取り組み事業に関係している洲本市の職員にも同席いただいております。
- ・この後、事務局から今年度の「淡路島定住自立圏共生ビジョン（第1次案）」に関する説明があるが、各委員においては、忌憚のないご意見・ご提案をお願いします。
- ・限られた時間ではあるが、最後までご審議いただくことをお願いし、開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

3. 委員紹介

- ・出席委員を順次紹介した（新規委員は、4名）。
- ・出席委員総数（8名）が委員総数（12名）の過半数を満たしているため、懇談会は有効に成立していることを報告した。

4. 副会長選任

- ・淡路島定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱の定めに基づき、会長の指名により、荒木俊介氏に決定した（副会長席へ移動いただく）。

5. 報告事項

報告第1-1号 定住自立圏構想の概要について

報告第1-2号 平成25年度淡路島定住自立圏の取り組みについて

- ・資料に基づき、2つの報告事項を一括して事務局から説明した。

なお、説明に先立ち、事務局から会議録の取り扱いについて、以下の通り、説明した。

- ・定住自立圏構想の取り組みについては、多くの方に知っていただくため、会議結果の内容は、原則、公開としています（全国の先進市の事例を見ても、事後の公開が基本です）。

- ・発言された委員の組織・団体名、個人名は出さず、単に「委員」と表記します。
- ・会議録は、一言一句まで記すのではなく、要約筆記とします。
- ・公開は、市公式サイト内の「定住自立圏構想」に掲載します。
- ・公開する前に、委員に内容を確認いただき、了承いただいた後、公開することとします。

6. 協議事項

議案第1-1号 平成26年度淡路島定住自立圏共生ビジョン（第1次案）
について

- ・資料に基づき、事務局から説明した。

<質疑応答>

(会長)

- ・まず、医療についてご発言いただきたい。

(委員)

- ・小児救急は、日曜日の昼間と夜は輪番の救急体制で対応しているが、島内の小児科の医師のみでは足りないので、島外から応援いただき、その際に宿泊しているのが現状である。
- ・前回、提案のあった施設の改善に関しては、詳細を承知していない。
- ・救急に関しては子どもが多く、大人の救急は案外少ない。ただ、県立淡路医療センターへ行く人は多いと思う。普通に熱が出たなどのニーズは結構ある。
- ・「コンビニ受診」と呼ばれる受診は、子どもの費用がそれほどいらぬということもあって、昔は多かったが、最近は減少してきたと思う。
- ・いざというときに、子どもを受診する体制は確保されているが、今後もこのままの体制でやっていけるのかどうかは分からない。それが今後の課題だと思う。

(関係課)

- ・1点目の応急診療所での宿泊について、応急診療所は本来、昼間に開くことを想定して健康福祉館内に造っているので、現在の応急診療所に宿泊機能を付加することは、スペースから考えて難しい。ただ、ご意見を伺っているので、参

考意見として、より一層使いやすい応急診療所にしていきたい。

- ・ 2点目の小児救急は、委員ご指摘の通り、休日は洲本の応急診療所で行っている。夜は、各医療機関に持ち回りで対応いただいている。応急診療所は、昼間は大人の診察も行っており、二診体制で手狭になっている。今後何とかしたいというのが所管課の思いである。

(委員)

- ・ 日曜休日の昼間は、小児科と一般の内科・外科の診察を同じところでやっている。一応、机は分けているが、同じ場所で行っている。施設は、最初からその構想で設計されていないため、使い勝手はあまりよくない。ぜひ、レイアウトなどを考えていただきたい。

(会長)

- ・ ぜひ（検討を）お願いしたい。
- ・ 続いては、教育、特に図書館についてご発言いただきたい。

(委員)

- ・ 2点伺いたい。
 - ①現在、淡路島定住自立圏として、洲本市と淡路市の2市で（協定を締結し、）推進しているが、今後、南あわじ市の参加はないのか？
 - ②図書館のサービス向上については、昨年度も意見があった。洲本市図書館協議会での議論でも、以前に比べ、利便性は向上してきたとの意見がある。洲本図書館と五色図書館との間でも、本の貸し出しに関しては、かなりサービスが向上してきた。兵庫県下の図書館とのやりとりでも、多少の時間はかかるが、かなり改善してきた。しかしながら、新しい図書の購入に関する予算が年々減少している。図書は鮮度が大切。システムの整備・連携も大切なことだが、図書の購入などに、この定住自立圏構想の仕組みを使って対応することは可能か？

(会長)

- ・ 私の承知している範囲で申し上げますと、以前、（南あわじ市に対し、淡路島定住自立圏への参加を）お誘いしたが、断られた経緯があると聞いている。

- ・ 図書の購入に関しては、事務局の考えを伺いたい。

(事務局)

- ・ 1点目に関しては、会長から回答いただいた通り。
- ・ 2点目に関しては、本日、「共生ビジョン（第1次案）」に取組事業を記載している関係各課に出席いただいているが、図書館業務を所管している部署（教育委員会社会教育課）が別件業務のため、欠席している。そのため、本来、事務局が答えるべき立場にはないが、個人的に申し上げると、図書館においては図書が命であり、最も大切な要素であることは理解できる。
- ・ 図書館の図書購入予算が減少しているとのことだが、おそらくその中でも、多くの方の関心が高い図書、また、広く読まれそうな図書を優先的に購入されていると思う。
- ・ 委員のご意見は、担当課にお伝えする。
- ・ 事務局として、このことを定住自立圏構想の（枠組みの）中で検討してもいいと思う。
- ・ システムの整備は大切な要素であるが、図書の充実も（魅力ある図書館として）重要な事柄であることから、両者を合わせて検討してもいいと思う。

[補足] 基本的な考え方として、洲本市（中心市）と淡路市（連携市）では、両市に関係する事業（業務）を取り組みの対象事業として、「淡路島定住自立圏共生ビジョン」に記載することとしています。そのため、取組事業とするためには、両市担当部署での協議・調整が必要になります。

なお、総務省が示している地方財政措置では、特別交付税措置が講じられる対象経費を「定住自立圏共生ビジョンに記載されている事業に要する経費」としています。

(会長)

- ・ (図書の購入に関しても、取組事業の内容によっては) 対象になるということのようである。
- ・ 続いては、文化・スポーツについてご発言いただきたい。

(委員)

- ・ 昨年は、自分の専門分野以外でもいくつか発言させていただいた。
- ・ 今回気になったのが、この「共生ビジョン（第1次案）」の記載では、「文化・スポーツ施設」に関して言えば、平成25年度から平成27年度まで事業費がない。ゼロからのスタートになっている。5年あるが、平成28年度でないと予算が下りないのか、このことについて意見を伺いたい。

(事務局)

- ・ 予算については、委員ご指摘の年度が確かにゼロになっているが、これはあくまでも定住自立圏構想に関する取組事業が記載されていないのであって、「文化・スポーツ」に関する事業がすべてゼロではないことをご承知おきいただきたい。
- ・ 本来であれば、この件も担当課から委員に考え方をお伝えいただきたいところだが、本日不在であるため、委員のご意見をお伝えし、次回までに報告させていただきます。

(委員)

- ・ 前年度に比べ、特別交付税の支給額が増額されたとの説明があったが、それでも、スポーツ・文化に関しては予算がないのかが気になった。
- ・ (支給される特別交付税が) 増額になったのであれば、補助していただきたいこともある。それが可能であれば、関係者に集まっていただき、意見の集約を図ることなども考えているので、よろしくお願ひしたい。

(会長)

- ・ 検討をお願いしたい。
- ・ 続いては、地域公共交通についてご発言いただきたい。

(委員)

- ・ 2点申し上げたい。
- ・ 1点目として、縦貫線では、平成25年度に8,500万円の赤字が出ている。平成27年には、岩屋から洲本間に関して、(洲本市と淡路市から)補助をいただく予定であるが、洲本から福良に関しても、住民が必要とされ、(行政として)路線維持を求められるのであれば、洲本市と南あわじ市で協議の上、補助をご

検討いただきたい。

- ・ 2点目として、洲本高速バスセンターの出発案内（行き先案内）は、淡路交通・神姫バスとJRバスのように、各バス会社に分かれている。一般の利用者や観光客の利便性向上を図るため、これを統合できるのであれば、ご検討いただきたい。

(事務局)

- ・ 1点目の縦貫線に関しては、従来補助してこなかったが、利用者が減少し、現状維持が困難になってきたとの報告をバス会社から受け、路線維持のために、洲本市と淡路市で協議し、支援することにした。
- ・ 2点目の行き先案内に関しては、現在、異なるバス会社同士で乗り合いを行っているところは、すでに統一した案内表示を行っているようだが、そうではないバス会社同士でも話し合うことは可能か？

(委員)

- ・ バス会社で申し上げると、淡路交通、神姫バス、山陽バス、阪急バスのグループとJRグループに分かれている。そのため、利用者には、目的地に応じて、両者の案内表示を見ていただくことになり、それが手間であるため、それらを統一できれば便利になると思う。

(事務局)

- ・ 今後の検討課題としたい。

(会長)

- ・ 続いては、ICT（情報通信技術）についてご発言いただきたい。

(委員)

- ・ ICTに関して申し上げると、ICTそのものは、単独ではなかなか実力を発揮することが困難であるため、医療や教育など、何らかの分野とつながることで機能を発揮する面が強い。
今後、（それらの分野において）ICTを必要とする場面が出てくれば、どうぞお声掛けいただきたい。

(事務局)

- ・できる限り、出番をいただくようにしたい。

(会長)

- ・続いては、地域内外の住民との交流・移住促進についてご発言いただきたい。

(委員)

- ・前任者からこの定住自立圏構想に関する取り組みについては、ある程度、聞いていた。
- ・定住自立圏構想の要綱を拝見し、淡路島のことについて考えた。
- ・来年度は国勢調査実施の年である。0歳から9歳までの子どもの数が1万人を切るのかどうか注目している。
- ・淡路島は特殊な地域で、18歳から22歳までの約35%が淡路島から出ている。(その彼らが)淡路島に帰ってくるかと言えば、(帰ってこないで)住民票を置いたままになっているのが現実である。
- ・明石海峡大橋の橋代が900円になったおかげで、かなり交流人口は増えたと思う。
- ・宅地建物取引業協会としても、他地区と連携し、人口が減少しないためには、どうすればいいのかを研究している。
- ・特にバスの値段には注目している。個人的には、舞子から千円を超えるような地域は、兵庫県ではないと思う。
- ・時間を見れば、(島外からでも)洲本までなら通勤も通学もできる地区である。
- ・今後、人口が減少すれば、それに応じて公共交通も少なくなると予測している。
- ・淡路島の向こうには何百万都市があるのだから、もっとたくさんの人を引っ張ってくることはできるはず。そのためにも、魅力ある淡路島をもっと発信したい。
- ・来年度からの(兵庫県内の公立高校の)学区再編に伴い、(他地区からでも)編入できるようになる。子どもの選択肢も増える。地価を見ても、淡路島は大阪からでも1時間圏内であるにも関わらず、非常に安いこともあり、人を引っ張ることができる地域である。
- ・公共料金、特にバス代は、定住していただける方には、極端に言えば、税金を

上げてでもいいから補助をもっと出してほしい。淡路市、南あわじ市の補助額はかなり違っていると思う。そのあたりを工夫すれば、何とかなるように思う。

(会長)

- ・バス料金についての話があったが、事務局から何か説明できるか？

(事務局)

- ・市としても、バスの利用を促進している。
- ・現在、高速バスを活用した通勤補助は行っているが、通学補助は行っていない。
- ・今後の検討課題であることは認識している。

(会長)

- ・その他、ご意見がある方は？
- ・特にいないようなので、「議案第1－1号 淡路島定住自立圏共生ビジョン（第1次案）について」は、各委員からいただいたご意見・ご提案などを参考にして、事務局で「第1次案」を見直した上で、「第2次案」を作成していただきたい。次回、さらに協議を重ねたい。

(事務局)

- ・承知しました。

7. その他

(委員)

- ・別の話になるかもしれないが、配付資料から両市の高齢化率を見ると、洲本市で28.4%、淡路市で32%を超えており、高齢化が進んでいる。すでに各地区には限界集落があるのではないかと思うが、今後、限界集落の取り扱いをどうするのか？宅建協会では、限界集落は農地のあるところに多く、取り扱いの見直しを進めてほしいとの県からの要望もある。
- ・これからの10年、15年で限界集落はどのように推移すると予測されているのか、また、そのあたりのことも考えていただきたい。

(事務局)

- ・本市でも高齢化が非常に進んでいる。それは周辺部、農村部だけではない。市街地の外町地区ではすでに40%を超え、市街地でも高齢化の進展や人口減少が懸念されており、何らかの対策が必要と考えている。
- ・国、特に総務省では、過疎地（のような条件不利地）においては、集落の中で核となる施設を作り、そこを基点として人や情報を集積（ネットワーク化）し、地域の活性化を図ろうとしている。
- ・兵庫県では、数年前から「地域再生大作戦」を展開しており、そのメニューの中には、50戸以下の小集落を支援するものもある。
- ・小集落の活性化を進めるにあたっては、行政だけが一方的に支援するのではなく、地域も一緒になって、できればご高齢の方でもがんばって取り組んでいただけた方がいっしょにやればと思う。また、そのような環境を作っていければと思う。
- ・そのあたりのことに関しては、委員ご自身がたくさんの知識や人脈をお持ちのことと思うので、今後、適宜、アドバイスをいただきたい。

(会長)

- ・淡路市においては、限界集落ではあるが、五斗長、長沢、生田での取り組みは、県下、近畿圏内でも有名だと思うので、そのあたりの取り組みも今後の参考にして、地域再生を行えればと思うがいかがか？

(淡路市)

- ・淡路市の五斗長、長沢、生田の各地区においては、地域で組織化が進んでいる。長沢は、特産物の自然薯を作って、「自然薯食堂」を運営している。五斗長は、遺跡を使った施設と特産のたまねぎを使った取り組みを行っている。生田は、もともと中山間地域であることから、(農林水産省の)中山間地域等直接支払制度を使ってそばの花を植え、「そば花まつり」を行うなど、そばを使ったまちづくりを進めている。私も昨日、生田の旧保育園跡へ行って食べてきたが、おいしかった。
- ・淡路市には、地域が主体となって取り組んでいるところがあるので、何かの機会に勉強していただきたい。

(会長)

- ・淡路を愛する人たちをいかにたくさん育てるのか、また、同じ志を持つ人をいか

に増やすことができるのかが、定住自立の取り組みを進める上で、最も大切なことかもしれないと感じた。

- ・その他、事務局から何かあれば、報告いただきたい。

(事務局)

- ・特になし

8. 次回開催予定（事務局説明）

- ・次回懇談会の開催日程につきましては、本日、委員のみなさまからいただいたたくさんのご意見・ご提案を踏まえ、内容を見直した上で、狩野会長、荒木副会長とも協議させていただきます。
- ・先に申し上げた通り、定住自立圏構想推進要綱の改正に伴い、定住自立圏を構成する本市と淡路市の両市長による懇談の場が必要となったため、本日、各委員からいただいたご意見・ご提案も含め、第2回までに協議の場を持ちます。
- ・以上のことから、開催時期としては、10月中を予定しています。
- ・日程の決定に際しては、第1回と同様、事前に各委員のご都合を伺った上で、多くの委員にご出席いただける日時を選び、決定後、文書でお知らせします。

9. 副会長挨拶

- ・長時間のご審議、お疲れさまでした。
- ・今回、私は当懇談会の副会長という重責を担うことになりました。甚だ微力ではございますが、狩野会長を支え、全力を尽くす所存でございますので、委員各位のご支援・ご協力を切にお願い申し上げます。
- ・本日、事務局から「定住自立圏構想」に関する説明を聞き、また、各委員からご意見・ご提案を多数伺って、この懇談会における議論の対象となる範囲が非常に多岐にわたっており、内容も専門的なものであることを実感しました。
- ・私は淡路市の連合町内会長という立場上、地域住民の方々と触れ合う機会も多いのですが、淡路市でも全国と同様に人口減少が進んでおり、昔に比べ、地域の活力・にぎわいが少しずつ失われているように感じております。
- ・今回のこの「定住自立圏構想」の取り組みがこの傾向に少しでも歯止めをかけるきっかけになればと願うとともに、みなさんと同じように、私自身、協力できることがあれば、やっていきたいと思っておりますので、これからも引き続

き、よろしく申し上げます。

- ・以上、簡単ですが、閉会にあたっての挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

10. 閉会